

鳴沢岳西尾根計画 出発までの背景

文責：藤井良太

概要

2009年度、京都府立大学山岳部は3回生になった安西^{やすにしまな}愛を主将とした新しい体制で、GWに残雪期の雪山登山を企画することとなった。登山対象とするのは劔岳周辺であり、計画を新入生の参加状況によって場合分けして考えていた。同時に、4月上旬～5月は新入生を勧誘する時期であり、クライミングやハイキングなどの新歓活動を行い、三名の新人が入部した。安西自身は、月曜日の講義がないため土日月の週休3日を利用して、フリークライミングや沢登りなど個人の登山も活発に行っていた。主将を交代した（実際に交代したのは1月末日）4回生の藤井は4月1日から休学しており部会以外では大学に来ていなかった。GW合宿の計画は、昨年同様、内蔵助平周辺で行うことに決まりそうで、安西はリーダーとして牛田山岳部顧問や伊藤先生（山岳部コーチ：京都てつじん山の会所属）に相談していた。

伊藤先生は、GW合宿にも参加する一方で、その前の週末で鳴沢岳の残雪期山行を計画していた。2008年度にも同じ、気候の落ち着いた時期（2008年4月25～27日）に蓮華岳丸石尾根を櫻井（山岳部所属）および京都てつじん山の会のメンバーと登っていた（この時は初日の午後の天候が悪かったが、翌日は晴れた。しかしメンバーのペースが遅かったため、新越尾根下降の予定を止め、屏風尾根のエスケープを使い、午後三時過ぎごろに下山していた）。この時の計画段階では、2008年4月15日付で伊藤先生から中島、加藤、藤井、安西、嘉門、高岸へ、「テントと車に1名分の余裕がある（から参加しないか）」との誘いのメールが入っていたが、現役部員はGW合宿を控えていたため誰も参加しなかった。

今回も、昨年と同様に伊藤先生が櫻井を誘って計画したものに安西を誘ったものと思われる。今年の場合は現役部員にメールとしての誘いはなく、伊藤から安西を経て伝えられたものだった。最終的には、伊藤からも安西からも山行計画が現役およびOBにメールで流されることはなかった。

伊藤先生の企画するこの形態は、部員だけの計画とは少し異なり、伊藤の既成の計画に希望者が参加させてもらうという形をとるため、どうしても部員の主体性に欠ける。今回、鳴沢岳西尾根計画に関して、部会で重点を置いて話されることはなかった。

2009年の4月は全般的に高気圧に覆われ、期間の中ごろに少し崩れたが、あとはおおむね晴天が続いた。藤井は4月17～20日でOBの中村氏と3月から計画していた北鎌尾根山行を行っていた。その週末以前もほとんどが晴れで、北鎌尾根でも標高の低いところではほとんど雪は溶けていた。昨年のGW前に信濃大町駅前に残っていた雪は、今年の4月16日の時点で全くなかった。気温も高く、5月中ごろの陽気が続いていた。そういった中で、4月も終わりの23日ごろ中国東南部で発生した低気圧が日本に接近し、26日に二つ玉になることが予想されていた。二つ玉低気圧による風雪を予想しながら、（どの程度まで想定されていたかはわからないが、）伊藤先生の判断のもと、3人は24日の夜に扇沢に向かった。

出発までの経緯

4月7日(火)

- ・部会（GWの計画を話しあう今年度初めてのミーティング）。

参加者；藤井、安西、竹中、藪内、栗原、横山、岡本（岡本はこの時点で退部）

山城を内蔵助平～劔岳周辺に絞り、上回生もだいたい参加者（安西・竹中・横山・小阪）が決まる。

伊藤先生・牛田顧問もGWは参加予定。藤井は必要があれば参加すると言っていたが決めていなかった。

- ・この時点で鳴沢岳計画は出ていない。

4月9日(木)

- ・安西→竹中（メール 10:31）

「伊藤先生に 25-26 の鳴沢岳にこやんか(来ないか)? って言われたんやけど行く？」

これ以前に安西は伊藤先生に鳴沢岳に誘われたことが分かる。

この安西からの計画への誘いに対し、竹中は授業や実行委員の仕事で断っている。【竹中の証言】

- ・安西、藪内、竹中、中村、藤井がクラックスにて新歓クライミング。

藤井は、安西から「伊藤先生に鳴沢岳西尾根に誘われて、行きたいが、GWの準備のためにおそらく行かないだろう」という旨の話を聞く【藤井の記憶】。

安西はこの時点では鳴沢岳計画にまだ参加を決定していなかった。

4月11日(土)

安西、竹中、藪内、中村、藤井で愛宕山に新歓ハイキング。

4月15日(水)

- ・部会 参加；竹中、栗原、藪内、横山、中村、河村、石川。 安西は遅れて参加。

- ・鳴沢岳計画の話は出てきていない。

- ・部会后、京都学生登山交流会（山岳団体の交流会）に安西・竹中・河村が参加。藤井も遅れて参加。

この交流会で山行計画発表をする。安西が府大山岳部の山行計画を発表したが、内容は主にGW合宿の計画についてで、鳴沢岳計画は出てきていない。

- ・交流会後の部室で。話の中で、藤井は安西から「伊藤先生の4月25～26日の鳴沢岳西尾根計画に参加する」ということを聞く【藤井の記憶】。

- ・その後、藤井は安西と竹中に「25～26日はGW合宿前のテント泊山行にするべき」という趣旨の意見をメールですが、安西は「テント泊はもちろん行すが、鳴沢岳計画があるので、29日の金毘羅トレと合わせて行うことになりそう」という趣旨の返事が来る。

4月17日(金)

- ・櫻井のパソコンに鳴沢岳計画書が 17 日付けで保存されている。
- ・週末の比良山行の計画書が安西からパソコンメールで送られてくる。

4 月 16 日～21 日

藤井は OB 中村と北鎌尾根に行く。

4 月 18 日(土)

- ・BOX ノート（部の情報交換兼議事録用ノート）に安西が記載
- 「4/18 時点での今後の予定 4/25・26 鳴沢岳西尾根（伊藤、櫻井、安西）」と記載あり。
- ・この頃に安西が部室のホワイトボード（部の予定を記載するもの）に鳴沢計画を書く。
- ・竹中が部室で印刷された鳴沢岳計画書を見つける。竹中が知らないうちに計画の在京留守担当になっており、安西に確認する。その後竹中は在京留守担当を承認。

4 月 19 日(日) 府立医大との合同新歓 安西と一回生と府立医大山岳部。

4 月 20 日(月) 比良・ヘク谷遡行 安西 小阪（府立医大山岳部）と。

4 月 22 日(水)

- ・部会で安西が「4 月 25～26 日に鳴沢岳西尾根に行きます。」という発表をする。部会で検討は行っていない。1,2 回生の部員はこの時に計画を全員が知った。この時点で悪天の話はされていない。【部員 2 回生の証言】
- ・藤井は遅れて参加。ロープワーク練習後、安西はパソコン室に GW 合宿の登山届作成に向かう。

4 月 23 日

- ・安西が学外活動届を大学学務課に提出する。
 - ・伊藤→安西（メール 16 : 29）
 - 「山は風雪になると思います。去年の蓮華岳は次の日晴れたからよかったのですが…」【安西の携帯より】
 - ・安西はスコップをワンゲル部から借りる。（藤井が北鎌計画で借用したままだったため）
 - ・安西はパソコン室で週末の天気を調べる。「バイオウェザー・週間天気予想」を印刷したものがある。
- 26 日の二つ玉低気圧が予想されており、安西はここでも週末の悪天を知ったと思われる。

4 月 24 日

- ・0 時頃 修正版の計画書が保存される。【伊藤コーチのデータ】この時点で計画を修正していた。
 - ・伊藤→櫻井・安西（メール 9 : 20）
- 「集合場所の変更 大津駅→近江八幡駅。共同装備としてコッヘルは伊藤がもっていく。午後 5 時ごろ

に荷物を車に積み込む」【安西の携帯より】 伊藤先生には出発自体を中止する考えは見られない。

・安西→藤井（メール 15：08）

「かなり天気が悪そうなので（入山は）どうなるか…、とりあえず出発だけはする予定ですが…」

・小林先生・院生方の証言（※報告書に記載する場合は小林先生に承認がいる）

夕方 18 時ごろ、F 2 の研究室で櫻井が小林先生・研究生と山の話をしていました。そこで櫻井は「週末の山は天気が悪そうで行くのは嫌だなあ」というようなことを言っていた。そこに伊藤先生が来て、遅れて安西もザックを持ってきて三人が合流する。安西は一回生 2 人〔石川・河村〕と新町(同志社大学)の人工壁に向かうために荷物を置いて帰る。安西が帰った後、伊藤先生は安西のザックが大きすぎるので何が入ってんねん」などという話をしていました。伊藤先生はその後荷物を車に積み込む。研究生らの話では、櫻井の様子がいつもと違ったとのこと。

・18 時半ごろ 竹中が伊藤先生に呼び出される。伊藤先生は「エスケープ追加した」と言い、竹中に印刷済みの計画書を手渡す。

・安西は一回生を連れて、新町の人工壁で他大学生（京大、同志社、府立医大）とも交流してクライミングをする。その後、安西が一回生と夕食をとったが、この時、安西は「週末の天気が悪そうだから敗退するだろう」と言っていた。

・その後、安西は 21：30 京都駅発新快速長浜行に乗り、集合場所である近江八幡駅に向かう。駅北口で櫻井と一緒に、遅れている（なぜ遅れたか不明）伊藤車を待つ。その際、電車で乗り合わせた帰宅途中の一回生石川と話をして時間をつぶす（鳴沢岳の話はしていない）。しばらくして伊藤先生が到着し、少し会話をした後、石川に見送られて三人は出発した。この時に伊藤先生は一回生の石川にも鳴沢岳に来ないかと誘ったらしい。【石川の証言】

・他の一回生やワングル部員も安西から誘われており、伊藤先生も難易度は高くないと考えていたようである。